

***DENSO***  
Crafting the Core

会社案内





ZERO

「環境」と「安心」の取り組みによって、社会から共感され、すべての人に笑顔広がる未来を届けます。



モビリティ、そして社会全体に貢献すべく、  
究極のゼロの実現、新たな価値の創造に挑戦します。

「環境」「安心」領域での価値創造を通じて、笑顔あふれる未来を届けたい。

この使命のもと、「環境」領域では「カーボンニュートラルな社会」の実現に向け、工場での生産活動だけでなくお届けした製品まで踏み込んで、CO<sub>2</sub>の排出と吸収でプラスマイナス「ゼロ」を、「安心」領域では「交通事故死亡者ゼロ」の世界の実現を、いずれの領域も究極の「ゼロ」を目指します。

また、環境問題や資源不足など地球規模の課題が一層深刻化する中、循環型社会の実現に向け「モビリティ」、そして「社会全体」へ価値を届けていくことが私たちの使命です。

これからの社会は、クルマがさらに高度化し、クルマと人、クルマと社会が多様な形でつながっていくため、これまで以上に多くの技術を組み合わせ、スピード感を持って、新たな製品やサービスを生み出していく必要があります。私たちは、変化の時代を力強く生き抜いていく会社へと進化し、多くの皆様と共に新たな価値を創造し続け、「循環」の輪をモビリティから社会全体に広がっていきます。

代表取締役社長CEO 林新之助

# DENSO at a Glance

デンソー早わかり

## Past

これまでの変遷

### 経営基盤/経営方針

1949年の創業以来、品質のデンソーとして経営基盤を固めつつ、長期方針を羅針盤に経営の舵取りを実施

1949



トヨタ自動車工業から分離独立し、日本電装株式会社を設立

1953



ドイツ・ロバートボッシュ社と電装品に関する技術提携契約を締結

世界に通用する製品づくりを目指し、社外からも積極的に技術を学ぶ。

1956

デンソーの源流となる社是の制定

創業の精神を将来にわたり守り育てるために制定。

1961

品質管理の最高権威であるデミング賞を受賞

受賞に向けた社員全員参加での取り組みが、今日も続く「品質第一」の思想や風土の礎となる。



### 研究開発/モノづくり

常に将来を見据えて研究開発に努めるとともに、モノづくりの力を磨き続けることで、不可能を可能に

1954



技能者養成所を開設

「モノづくりはヒトづくり」「技術と技能の両輪」の思想は、今日にも受け継がれる。

1968



IC研究室を開設

将来的に自動車部品が電子制御化されることを見越し、早くから社内でのICの研究開発を行う。電子関連製品は、現在のデンソーの主力製品の一つ。

1984



額田テストコースを開設

部品メーカーとしては早くからテストコースを開設。カーメーカーに匹敵する評価施設は、お客様の期待を超えた製品性能や品質保証のため。

### グローバル展開

お客様のニーズに応えるため早くから世界各国に進出し、生産拠点だけでなく、R&D拠点も多くの国で展開

1966



米国にシカゴ営業所、ロサンゼルス出張所を開設

海外初の営業所の設立は、貿易の自由化など、世界の潮流を見越しての対応。

1972



初の海外生産会社であるニッポンデンソー・オーストラリア、ニッポンデンソー・タイランドを設立

お客様のニーズに応えるため、世界各地のお客様の近くでの生産を開始。

# Past

これまでの変遷

## 経営基盤/経営方針

### 1996

社名を株式会社デンソーに変更

真のグローバル企業を目指し、社名から「日本」を取り、「株式会社デンソー」に変更。

### 2017

デンソーグループ2030年長期方針を策定

「地球に、社会に、すべての人に、笑顔広がる未来を届けたい。」をスローガンとして掲げる。

## 研究開発/モノづくり

### 1991

基礎研究所を設立

5～20年先を見据えた将来技術の研究開発を実施。現在の研究分野は、半導体材料からオイル産生微細藻類に至るまで、多岐に渡る。

### 2015

グローバルな研究開発体制の構築

デンソーは世界中（日本、アメリカ、ドイツ、中国、タイ、インド、ブラジル）にあるテクニカルセンターを拠点に、社内外の枠を超え、カーメーカー、研究機関、大学等と連携し、最先端の技術、製品の開発を推進。

## グローバル展開

### 2004

デンソースピリット

1949年の創業以来培ってきた価値観や信念を明文化し、世界中のデンソー社員で共有したもの。  
クルマ社会や人々に貢献する原動力や競争力となる、先進、信頼、総智・総力の3つからなる行動指針。

### 2016

グローバル共通人事制度

本社および海外グループ会社を含めた幹部層約2,300人を対象に、グローバル共通人事制度を導入。  
個人の発揮能力にフォーカスした世界共通の等級を導入。世界中の人材が本社を含めたグローバル全体の中でキャリアを描くことを可能に。

# Present

数字で見るデンソー

全従業員数 <b>15.5</b> 万人	連結売上収益 <b>7.5</b> 兆円	世界初製品 <b>180</b> 以上	特許保有件数 <b>3.6</b> 万件
技能五輪国際大会 総獲得メダル数 <b>81</b> 個	グローバル拠点 <b>35</b> の国と地域	海外売上比率 <b>59</b> %	

2026年3月31日現在

# Future

未来への思い

環境・安心分野で究極の「ゼロ」を目指す



# 環境

Green

## 2035年度カーボンニュートラルを目指す

2035年度という近い未来に、モノづくりにおけるカーボンニュートラルの実現を目指します。また、環境負荷低減を促進する電動車の普及に向け、国や地域によって異なるエネルギー事情やインフラ状況に応じた様々な市場ニーズに対応する多様な選択肢を提供し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

### デンソーとサプライヤーとの協働を深化

サプライヤーと共にカーボンニュートラル実現を目指すため、デンソーは、サプライヤー全体のCO<sub>2</sub>排出量を見る化した上で、具体的なCO<sub>2</sub>排出量削減目標を主要サプライヤー360社と共有し、様々な切り口で取り組みを進めています。



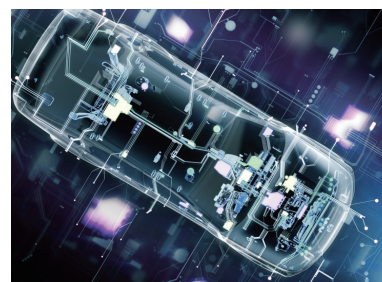
### 弛まぬ努力と革新技术による新しいモノづくり

従来の強みである省エネ活動を徹底的にやり切り、クレジットを含む再エネの確保・活用に加え、デンソーのモノづくりの知見を結集させた革新的な創エネ技術の開発を進めています。創エネに必要な先端技術を日本のモデル工場で実証することで、技術を磨き上げ、各地域のエネルギー事情に合わせた最適な創エネ活動に落とし込みます。



### 多様なパワートレインの市場ニーズに応える体制を強化

多様化するパワートレインの市場ニーズに迅速かつ能動的に対応し、カーボンニュートラルの早期実現に貢献する必要があります。内燃機関で培った強固な経営資源を電動化分野との間で柔軟に配分し、技術・人財の融合によるシナジーを最大化すると同時に、パワートレインと熱マネジメントのシステム開発連携を飛躍的に高め、エネルギー効率と快適性を両立するソリューション創出を加速します。



## 技術ロードマップ

重点領域の将来成長を支える、デンソーの技術開発とロードマップの一部をご紹介します。

### 電動化／エネルギーマネジメント領域

#### 主な技術

地面に埋め込まれた送電装置によって、路上を走行・停止中のBEVの電池に自動的に給電される走行中給電システム。BEVの充電や航続距離の課題を根本解決するポテンシャルを持つ技術として、国・産業界から広く求められる。

#### 競争力

長年の電動開発で培った、電池性能に頼らないクロスドメインでの最適制御技術で、電池搭載量を10分の1に、走行距離は無限大に伸ばす。

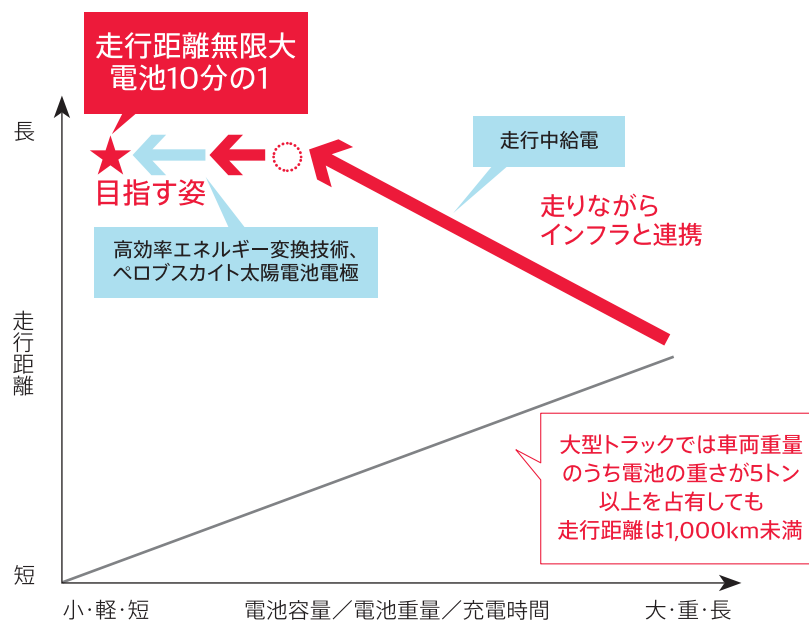
#### 課題

社会実装に向けた大規模プロジェクトへの参画、車載品質を担保した生産体制の構築。

#### ロードマップ

技術検証・車両への搭載コンポーネントの開発・テスト用低速走行路での実証完了。2028年度中の事業化を目指し、公道での実証実験を実施中。

走行中給電による電池積載量・走行距離変化



# 安心

Peace of Mind

## 交通事故死亡者ゼロに向けた高度運転支援システムの普及

交通事故死亡者ゼロに向け、高度運転支援システムの普及に取り組んでいます。安全技術の性能を高めるだけでなく、シンプルで安価な部品からAIなど最先端技術を搭載した先進運転支援システムまで、各市場の交通インフラ・システム事情に寄り添った多様な製品を提供し、誰もが安心・安全な移動を享受できる社会を実現します。

### 安心戦略のアプローチ

「交通事故死亡者ゼロ」を目指し、安全製品をさらに進化させる先端技術の開発と、価格面でも魅力のある安全製品を提供する安全製品普及の2方向で取り組んでいます。

長年の安全製品量産経験で培った、誤動作を起こさせない製品評価・つくり込みの力と、先進技術であるデータドリブン開発を融合することで、ユーザーが安心して使用できる安全性能を世界中に提供します。



### “ヒト”と協調したアプローチで、さらなる安心付加価値を提供

デンソーは、ADAS (先進運転支援システム) 領域の製品・技術だけでなく、ドライバーや乗員のモニタリング技術といったHM (Human Machine Interface) 製品・技術も提供しています。このADAS領域とHMI領域の制御を連携させることで、クルマの周辺環境を理解するだけでなく、クルマの中の“ヒト”(ドライバー・乗員)までも理解した、人協調型のADASシステムの提供が可能です。これは、ADASとHMIの両方を熟知したデンソーだからこそ実現できる高度なシステムです。

HMIシステムで検知・蓄積した乗員データのAI学習を通じ、運転の熟練度や、眠気などのドライバーの状態を理解します。さらに、ADASシステムが捉えた周辺環境データのAI学習から得た情報と連携することで、ドライバー自身が気づいていないリスクまで推定し、危険に近づかせないような制動や、人が煩わしく感じない運転支援といった、業界初の“ドライバーにフィットした行動変容”を促すシステムにより、事故ゼロを実現していきます。



## 技術ロードマップ

重点領域の将来成長を支える、デンソールの技術開発とロードマップの一部をご紹介します。

### 安心／自動化領域

#### 主な技術

AIを活用した自動運転をデータドリブン開発によりスピーディに実現する技術。  
ヒトの行動予測と行動変容を促す技術。

#### 競争力

ADAS 量産実績を活かした安全性能が高い自動運転技術の実現。  
ヒト・インフラと協調しすべての人に安心な移動を提供。

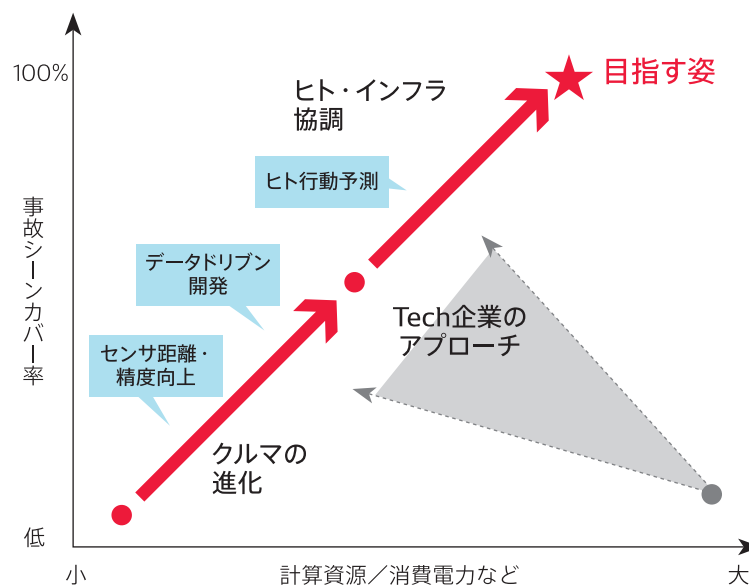
#### 課題

パートナー企業との協業による開発スピードの加速。

#### ロードマップ

データドリブン開発を活用したグローバルに展開できる自動運転技術の確立。  
ヒト・クルマ・インフラとの融合により、2035年に事故シーンカバー率100% 実現を目指す。

ヒト・クルマ・インフラ連携による事故シーンカバー率の変化



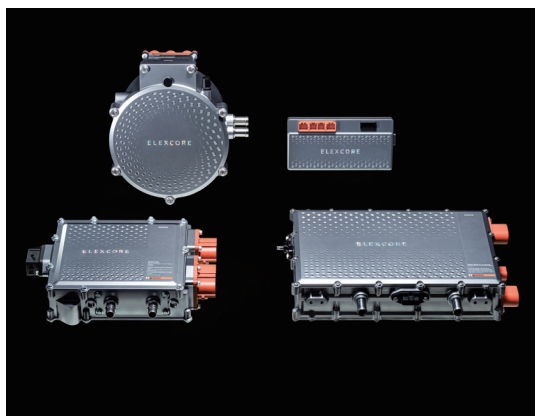
## 事業の概要

## 事業の概要

デンソーでは、モビリティを中心とした領域において7つの事業を展開しています。将来社会に新しい価値を生み出していくための事業ポートフォリオを構築し、それぞれの事業が共鳴し合いながら創出価値最大化に向けて取り組んでいます。また、変化の激しい事業環境においても社会のニーズを捉えた製品・システムを提供し、持続的成長を実現するための重点戦略として、事業ポートフォリオの入れ替えを進めています。

	セグメント	売上収益（比率）
車載事業	エレクトリフィケーションシステム	1兆4,335億円 (19.0%)
	パワートレインシステム	1兆4,797億円 (19.6%)
	サーマルシステム	1兆7,804億円 (23.6%)
	モビリティエレクトロニクス	2兆1,987億円 (29.2%)
	先進デバイス	3,903億円 (5.2%)
非車載事業	ファクトリーオートメーション (FA)	1,489億円 (2.0%)
	フードバリューチェーン	

# エレクトリフィケーションシステム



カーボンニュートラルに貢献する電動化システムを提供するため、モビリティに欠かせない主要製品の高性能化や小型化、省燃費を実現してきました。デンソーの幅広い事業領域を活かし、モビリティ内のあらゆるシステムや製品をつなぎ、電気・熱エネルギーを効率よくマネジメントすることで、さらなる燃費性能の向上や航続距離の延伸、充電時間短縮による利便性向上を実現します。

## 事業の強み

- 垂直統合で磨いた技術開発力とお客様の期待に応える高品質な製品の品揃え
- 車両全体をエネルギーマネジメント視点で最適統合するシステム実現力
- 世界各地のニーズに応える、グローバル5極の生産供給体制

## 事業戦略

電動化の潮流が複雑化する状況下でも、他社に先行する技術開発、お客様の期待に応える供給体制、お客様の期待を超える品質で、2030年度電動化領域シェア30%の実現を目指し、持続可能なカーボンニュートラル社会の実現に貢献します。多くのお客様に採用していただいているインバーター、モータージェネレーターなどの競争力を磨くとともに、電源システムやエネルギーマネジメントシステムの技術開発を進めており、今後も品揃えを拡充していきます。さらに、乗用車以外の2輪、工場・倉庫内の自動搬送、小型モビリティ、商用・農建機、空モビリティなどあらゆる電動モビリティを支える電動化技術を展開し、グローバル電動化市場をリードし続けます。



# パワートレインシステム



地球環境への負荷を最小限にとどめ、燃料の多様化や年々強化される規制対応へのサポート。高品質なシステムとコンポーネントを供給することにより、クルマ本来の走るよこびと環境性能の両立を実現するソリューションを提供します。

## 事業の強み

- パワートレインの進化を世界初製品で牽引してきた研究開発と量産化力
- クルマの安心・安全な走行を支える、信頼性の高いモノづくり力
- パワートレインに精通する人材が、有機的に連携できる組織力

## 事業戦略

パワートレインシステム事業は、これまで“環境負荷低減”と“利便性”の両立を図り、モビリティの普及に貢献してきました。その過程で、技術や技能を学び、デンソーの人・組織を市場やお客様と共に磨き上げてきました。こうして獲得した技術・技能をもって、持続可能なモビリティ社会の実現に向け、貢献を続けていくことが我々の責務です。2025年度も引き続き、「メンバーが笑顔で誇り高く元気に活躍し続ける」ことを軸に、持続可能な未来に向け、昨今のカーボンニュートラル社会の実現に向けたアプローチの多様化と、それに伴う様々な「パワートレイン」市場ニーズを踏まえ、継続する内燃機関ニーズに効果的に応えていくための“サプライチェーン全体での総仕上げ活動”および“新たなエネルギー領域（水素）の事業化への挑戦”を推進していきます。



# サーマルシステム



拡大するクルマの熱課題に対し、熱製品で世界一のシェアを占める企業の責務として、空調・冷却製品で培った技術をクルマ全体の熱マネジメントへと進化させ、貢献領域を拡大します。ダントツの省エネ技術を織り込んだ熱マネジメント製品によるカーボンニュートラルと、世界に先んじた樹脂・アルミのリサイクル材活用でサーキュラーエコノミーを牽引し、持続可能な地球環境を次世代へつなぎます。

## 事業の強み

- 環境技術特許 2,500 件突破、世界初製品・世界シェア No.1 製品
- 技術結集可能な社内共創、世界中のお客様や新たなパートナー
- 世界 56 拠点を支える地域に根付いたグローバルサプライチェーン

## 事業戦略

クルマで培ってきた冷媒・水・空気の熱交換技術をさらに磨き上げ、基幹製品の改善と進化を通じて、お客様を支え続ける持続可能な経営を実現します。また、エアコンからクルマ全体の熱マネジメントへと拡大し、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーへの取り組みをより一層加速させ、環境性能を高めた製品へ事業ポートフォリオを拡張します。さらに、熱を「操る」革新技術に挑戦し、新たな価値を創出します。ヒトからクルマ、さらには社会へと貢献領域を広げ、地球温暖化を解決する具体的な手段を提供します。



# モビリティエレクトロニクス



CASEの進展によって引き起こされる社会の進化と変化およびユーザーニーズを的確に捉え、エレクトロニクス技術（ECU、センサ、半導体）とソフトウェア技術を強化。大規模システム化とSDV化の進むモビリティに新しい価値を提供する製品を投入し続けることによって、カーボンニュートラルと交通事故ゼロを実現し、すべての人が安心して快適に移動できる社会づくり“Quality of Mobility”の向上に貢献していきます。

## 事業の強み

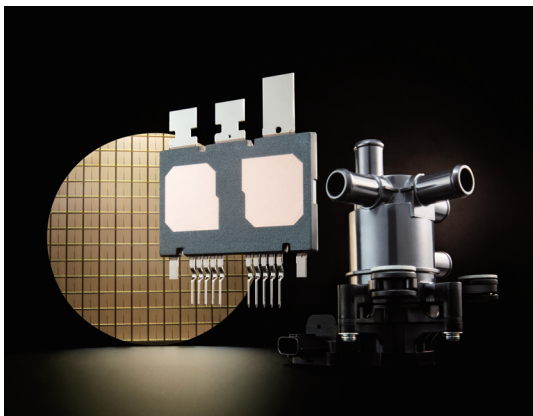
- クルマの全ドメインの幅広い技術と実装力により新しいユーザー体験を実現
- 車載製品で培ってきた信頼性と先進性を備えた魅力ある製品を提供
- 世界中の車両メーカー、半導体メーカー、ソフトウェアベンダーとのパートナーシップ

## 事業戦略

電動化・SDV化の進展に伴い電子プラットフォームが大きく刷新され、モビリティエレクトロニクス市場は、成長領域としての大規模統合ECUと従来領域の単機能ECUへ二極化されていきます。デンソーはこの転換を好機と捉え、クルマ全体のエレクトロニクスとソフトウェアの知見をベースとしたポートフォリオマネジメントにより、成長領域であるADASシステムと大規模統合ECUの強化、およびソフトウェアの付加価値を向上し収益化につなげるビジネスモデルを構築して、継続的な事業伸展を図っていきます。



# 先進デバイス



モビリティ領域にとどまらず、社会とお客様の抱える課題を解決する事業を創出・拡大するため、技術軸ではなく、社会とお客様への貢献を軸に再編された組織として、センシング・アクチュエーションの連携と、垂直統合の強みを活かした半導体によるシステム価値向上を推進します。これらを通して、新たなデバイス・システムの創出や電動化市場の拡大に対するQCD(品質・コスト・納期)全方位での信頼獲得を目指します。

## 事業の強み

- センシング & アクチュエーションによる新たな価値創出
- 内製・社外生産委託・パートナー連携による強固な半導体供給基盤
- 新領域製品の変種変量に耐えうる高い生産技術とそれを支える現場力

## 事業戦略

モビリティの多様化が確実に進み、電動化領域におけるPHEV・HEVシフト、ADAS領域におけるシステム統合化・知能化が加速しています。このような環境では、お客様や世の中に認められる製品の素早い展開が事業の成否を分けると認識しています。先進デバイス事業グループでは、2030年に向けた“勝ち筋”を「システム価値向上」「パートナー連携」「品揃え」と定め、半導体・センシング & アクチュエーションの競争力を高めていきます。



# ファクトリーオートメーション (FA)



安心してモノづくりを続けられるソリューションを提供し、製造業全体の持続的成長に貢献します。標準化・デジタル技術を通じて、品質向上・コスト低減・納期短縮を実現し、生産技術不足に起因する現場課題を抱えるお客様に最適なソリューションを提供します。また、お客様のモノづくりを持続的に進化させながら、産業横断的にモノづくりを革新するラインビルダーとして、製造業全体の競争力強化に貢献します。

## 事業の強み

- ・75年以上にわたって培ってきた多種多様なモノづくりのノウハウ
- ・構想設計から保守までカバーするエンジニアリングチェーン全域にわたるノウハウ
- ・世界130拠点以上で最適生産に向け磨いてきた設備やロボットの内製化力

## 事業戦略

構想設計から保守までカバーするラインビルディングサービスを軸に、生産技術不足に悩むお客様に最適なソリューションを提供します。構想や仕様など上流工程でのエンジニアリングサービスに加え、量産後の生産改善サービスを通じてお客様とつながり続けることで、現場のデータやノウハウが標準化を加速し、お客様のモノづくりを持続的に進化させます。また、ビジョンに共感するパートナーと連携し、産業横断的にモノづくりを革新するラインビルダーとして、お客様・産業をまたいだ標準化・デジタル技術を通じて、製造業全体の競争力強化に貢献します。



# フードバリューチェーン



人々の暮らしに欠かせない食において、パートナーと共にフードバリューチェーン全体を見据え、「いつでも・どこでも・誰でも・いつまでも」食の安心・安全を届けるソリューションを世界のあらゆる地域に提供するため、技術と発想で新たな価値を提供し、すべての人が安心・安全に暮らせる社会に貢献します。

## 事業の強み

- 担い手不足や気候変動に対し、安定的に栽培できる施設園芸ハウス・自動化技術
- クルマで培った熱制御技術・小型軽量化技術を活用した、小型モバイル冷凍・冷蔵機
- 製造現場で培ったQRコード®・RFID・デジタル化技術

## 事業戦略

食をつくる“栽培”や、食を運ぶ“流通”にデンソーの工業化技術を導入することにより、「いつでも・どこでも・誰でも・いつまでも」、食を安心・安全に手に入れられるソリューションを提供していきます。具体的には農業技術と工業技術の融合による農場の工場化により、「担い手・労働力不足」「エネルギー枯渇・気候変動」に柔軟に対応した食料の安定・計画生産ソリューション、また、消費者に効率よく品質を保持した食を届ける食流通ワンストップソリューションをパートナーと共にグローバルに展開し、食に関する社会課題を解決していきます。



新たな価値を生む基盤

---

## 強固な事業基盤

---



### 価値創造を支える人財

デンソーで働く社員には、景気悪化の中で分離独立したその始まりから、厳しい環境下でも成すべきことを成し、社会に価値を提供する技術開発・モノづくりを実践するという不屈の精神が継承されています。1949年の会社設立以来、“人”を最も重要な資本と位置付け、未来のデンソーを牽引する人財の育成を続けるとともに“人”を大切にす経営を実践してきました。



### 強靱な供給体制

長い事業活動の歴史の中で、多様なお客様と信頼関係を築き、ニーズに沿った技術を探求し、共に知見を深めてきました。そして、お客様のニーズを形にして安定してお届けできる供給基盤を築き上げてきました。現在、世界で約7,480社のサプライヤーの皆様と共に、叡智を結集した“モノづくり”を実現し、お客様が必要とする時・場所にタイムリーに価値をお届けするための供給網を築いています。



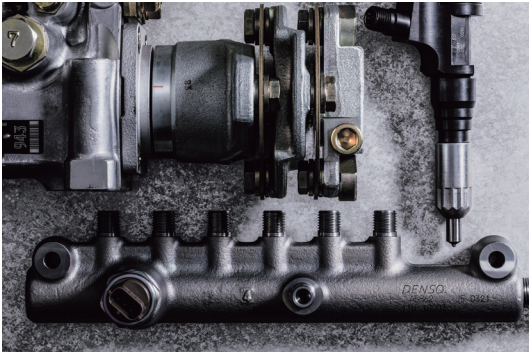
### 盤石な財務資本構成

これらの強固な事業基盤は、一朝一夕では模倣することができないデンソーの競争力です。チャレンジを後押しする盤石な財務基盤のもと、社内人財の力およびステークホルダーとの信頼関係をさらに盤石なものへと強化・拡大し、誰も見たことがない新たな価値の実現に取り組んでいます。

---

# 先端研究開発

---



## 時流に先んじる創造へのこだわり

デンソーは、社会の変化を鋭く捉え、“世界初”にこだわった製品開発を行ってきました。世の中になくものを生み出した“世界初”の製品はこれまでに180を超え、今現在も、複雑な社会課題を解決する新たな技術・製品開発に邁進しています。欧米と日本の技術格差が歴然としていた創業期から、変わらず技術・製品開発に執念を燃やしてきました。



## グローバル開発体制

1985年にはアメリカの地に海外初のテクニカルセンターを、1991年には先端技術研究所を設立し、半導体やエレクトロニクス、材料、AI、人間工学、量子コンピューティングなど、今日の競争力につながる先端技術開発を先導してきました。2014年には世界全7極にテクニカルセンターを構え、イスラエルやシリコンバレーなどイノベーションの震源地でも技術を探求しています。産官学や事業パートナーとの連携を通じた社会課題解決にも積極的に取り組んでいます。



## 世界最高水準の研究開発基盤

2024年度は売上収益比 8.6% にあたる 6,194 億円の研究開発費を投じ、将来に向けて競争力を磨いています。AI 活用を含めた DX による効率化を推進しながら、今後も「環境・安心」の軸で定めた重点領域を中心に、研究開発を強化していきます。

---

## 三位一体のシステム提案力

---



### 真のニーズを捉える

お客様およびその先のエンドユーザーのニーズや将来構想をタイムリーかつ的確に理解するためには、車両全体の視点で最適解を提案する必要があります。デンソーは、創業当初から携わってきたメカ領域のみならず、エレクトロニクス・ソフトウェア領域の技術開発にも50年以上取り組んできました。これにより、各領域だけで事業活動を行ってきた企業には会得することが難しい、総合メーカーならではの競争力が培われました。



### 組織の枠を超えたパートナー連携

1968年には、自動車部品が電子制御される未来を見据え、IC研究室を開設し、半導体の完全自主生産体制を確立しました。1995年には、世界で初めて電子制御式燃料噴射システムの量産に成功、車両視点でのシステム提案の先駆けになりました。2007年には、自社技術を融合させた両面冷却インバーターの量産を開始、メカ・エレクトロニクス・ソフトウェアの3領域を最適なバランスで組み合わせさせた独自システムは、市場から高く評価されました。それぞれの領域の知見を融合し、車両開発の早い段階から、時にはお客様の中に入り込んで共にクルマをつくり上げています。



### ハード・ソフトの融合で構想を実現する力

この唯一無二の競争力は、クルマにおけるソフトウェアの役割・重要性が高まってきた今日において、より一層他社と差別化された強みとして力を発揮します。2021年には、高まるソフトウェア開発ニーズにさらに応えるべく、ソフトウェア人財へのリカレントシステムを開始しました。さらに、クルマの開発で培った優れた技術と確かな品質を幅広い産業で実装することで、社会に確かな価値を届けます。

---

## 高効率・高品質なモノづくり

---



### 世界をリードするモノづくり基盤

1,000分の1mmにこだわる微細な加工や、生産効率も品質も向上する自社設計の組付けライン。1997年から継続される、カイゼン文化に支えられた生産現場主体の工場改善活動“Excellent Factory”と、2019年に開始した世界約120の工場をネットワークでつなぐ“Factory-IoT”の融合で、人・モノ・設備から得られる様々なデータを分析し、不具合の予兆を捉えて対処したり、熟練者のノウハウを形式知化してグローバルに活用したりと、モノづくり基盤のさらなる強化を図っています。



### モノづくりのカーボンニュートラルへの取り組み

デンソーでは、生産工程の技術開発推進や全員参加による徹底した省エネ活動のほか、必要な時に必要なだけエネルギーを使用・供給するエネルギーJIT(ジャストインタイム)活動などの省エネ活動を積極的に推進してきました。今後は、Factory-IoTなどの技術を活用した省エネ活動の継続・強化や、経済合理性を考慮した再生可能エネルギー由来電力・ガスの購入や自家発電(太陽光発電)の導入などにより、「モノづくりにおける完全なカーボンニュートラル」を目指します。



### 高度モノづくり人財

デンソーの高度なモノづくりの力は、モノづくり人財により支えられています。「モノづくりを支えるのは“ヒトづくり”」という考えに基づき、技術と技能の両輪を強化すべく設立した技能養成所「デンソー工業学園」は、2024年に70周年を迎えました。技能五輪の国際大会でも多数の金メダルを獲得するなど、グローバルに通用する突き抜けた技能を養成しています。

---

# サステナビリティ経営

社是の「最善の品質とサービスを以て社会に奉仕す」という言葉は、事業を通じて社会の課題解決に挑み、人々の幸福に貢献する、というデンソーのサステナビリティ経営そのものを表しています。そして社是に込められた先人たちの想いを継承・実践し、次世代に襷をつなげていくことは今日のデンソーの使命です。

---



---

## デンソーに息づくサステナビリティ経営

会社設立から7年後の1956年、すべての社員が明確な自覚のもと新しい発展に向かって前進していくための心構えを守り育み、後世へ伝えるべく、社是を制定しました。1994年には、社会環境の変化に合わせて、社是の精神を現代の言葉で明確化すべく、「デンソー基本理念」を制定。さらに、海外への事業展開で世界各国の社員が増加する中で、世界中のデンソー社員とこの価値観・信念を共有するため、2004年に行動指針「デンソースピリット」を制定しました。

社是やデンソー基本理念にある「事業を通じて社会に貢献する」という考え方は、サステナビリティ経営の礎として脈々と受け継がれ、現在もグローバル約16万人の社員の中に息づいています。

---

## サステナビリティ経営の推進体制

経営戦略本部を担当する役員を統括責任者として、経営戦略部が全社のサステナビリティ経営推進機能を担っており、デンソーグループのサステナビリティ経営の方向付けを全社視点で議論する場として、サステナビリティ会議を設置しています。サステナビリティ会議は、機会とリスクの特定や、策定したマテリアリティ案の審議および活動のフォローアップと軌道修正を行うなど、サステナビリティ経営の推進に対する責任を負っており、議論内容については取締役会に付議・報告します。

---

## 事業の概況

社名	株式会社デンソー
設立	1949年12月16日
本社所在地	〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1
資本金	1,875億円
売上収益 <sup>*1</sup>	連結：7兆5,400億円
営業利益	連結：5,525億円
当期利益 <sup>*2</sup>	連結：4,438億円
従業員数 <sup>*3</sup> (就業人員ベース)	連結：154,716人 単独：43,889人
連結子会社数	190社 (日本52、北米21、欧州45、アジア68、その他4)
持分法適用関連会社数	33社 (日本17、北米2、欧州2、アジア10、その他2)
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで

\*1. 外部顧客に対するものです

\*2. 親会社の所有者に帰属

\*3. 就業人員（連結会社への出向者を除き、連結会社からの出向者を含む）であり、臨時雇用者数は含んでいません

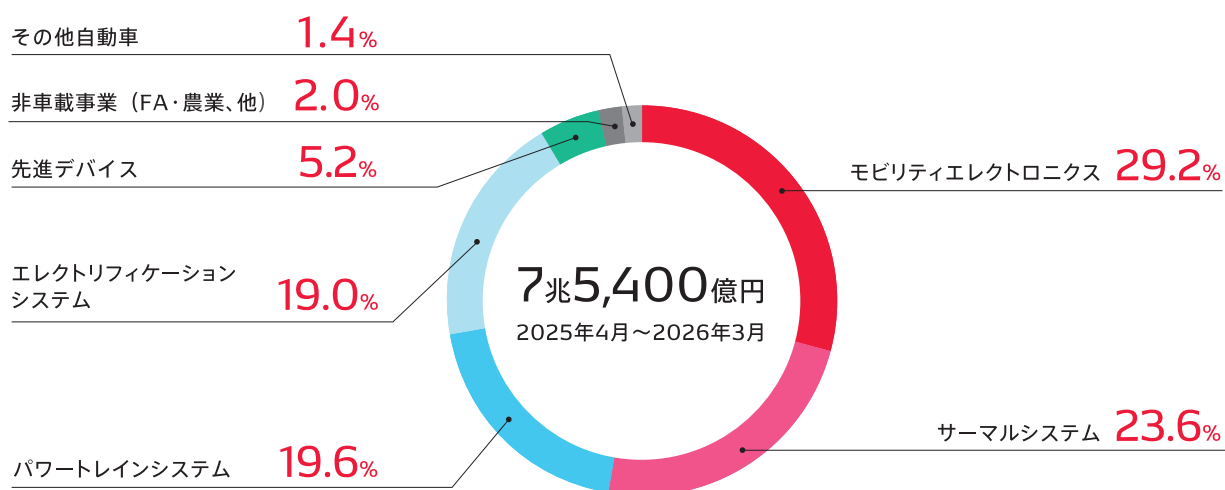
# 主な拠点

2026年3月31日現在

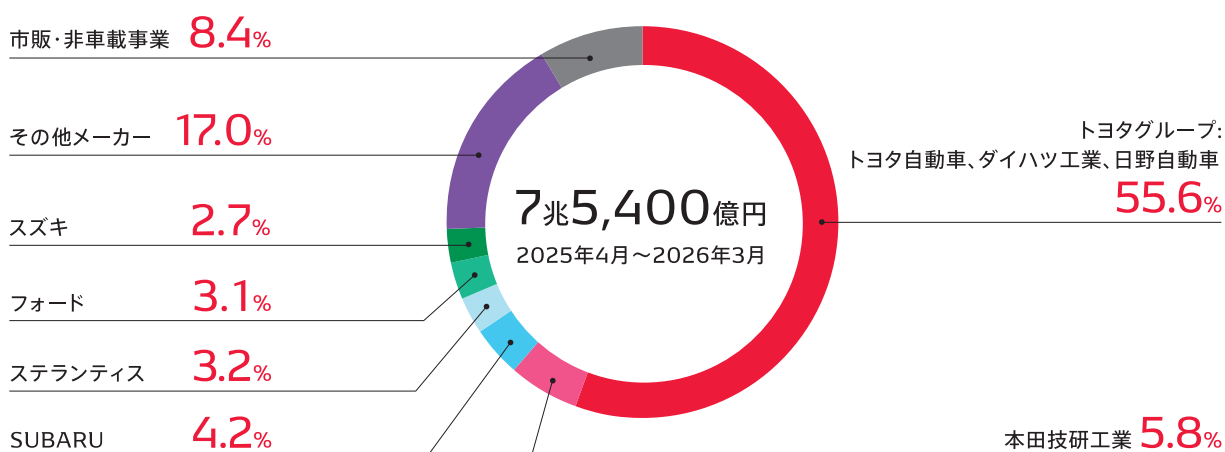
本社・工場・研究所	従業員数	主な事業内容
本社	12,579	-
安城製作所	4,921	スターター、オルタネーター、インバーター、モータージェネレーター、 パワーステアリングモーターの製造
西尾製作所	6,073	カーエアコン、ラジエーター、 電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
高棚製作所	2,589	メーター、ディスプレイ、ミリ波レーダー、画像センサー、 パワーモジュール、各種センサーの製造
湖西製作所	3,267	ワイパーシステム、 パワーウインドウモーターなどの自動車用小型モーターの製造
大安製作所	4,288	点火系製品、先進安全関係製品、動弁系製品、駆動系製品、 吸排気系製品の製造
幸田製作所	3,424	半導体ウエハー、IC、電子制御製品の製造
豊橋製作所	966	カーエアコン、ヒートポンプモジュール、サーボモーターモジュール、 自然冷媒CO <sub>2</sub> 家庭用ヒートポンプ給湯機の製造
広瀬製作所	1,157	インバーター、ECU、パワー半導体の製造
阿久比製作所	792	生産設備の製造
豊橋東製作所	650	ブLOWERモーター、 クーリングファンモーターなど自動車用小型モーターの製造
善明製作所	1,331	電子制御式ディーゼル・ガソリン燃料噴射装置の製造
先端技術研究所	266	先端機能材料、AI、人間工学などの研究
Global R&D Tokyo, Haneda	173	自動運転分野の研究開発・実証
額田テストセンター	19	実車走行試験

# 財務データ

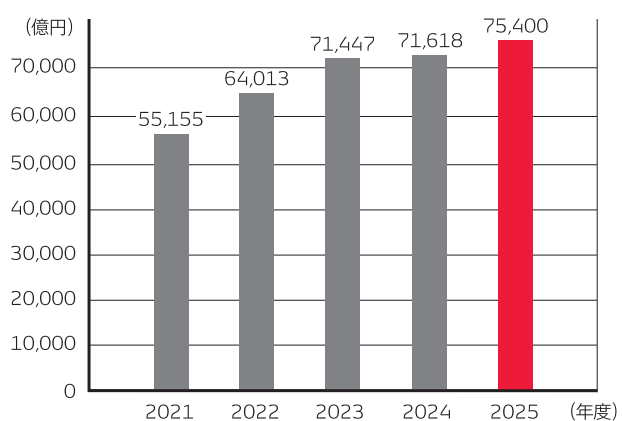
## 製品別売上収益



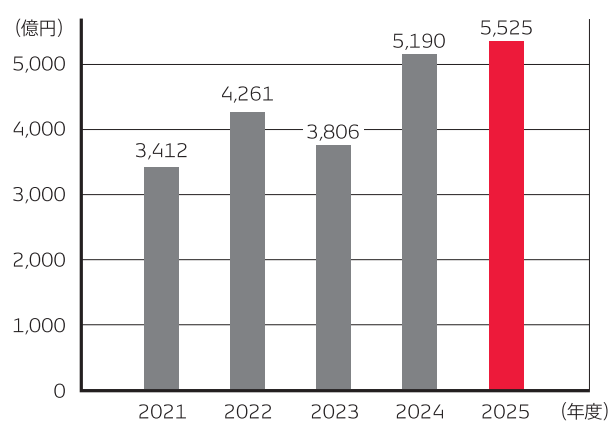
## 得意先別売上収益



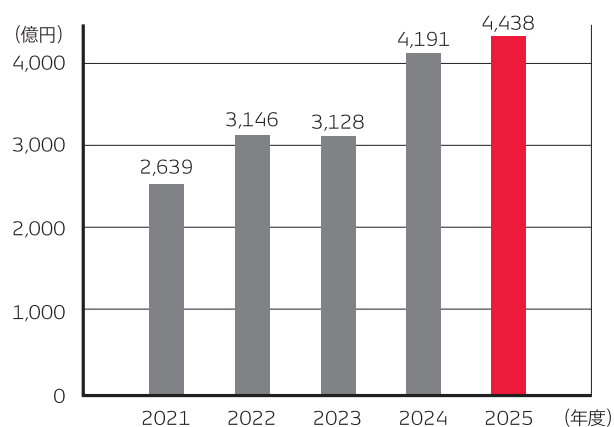
## 売上収益



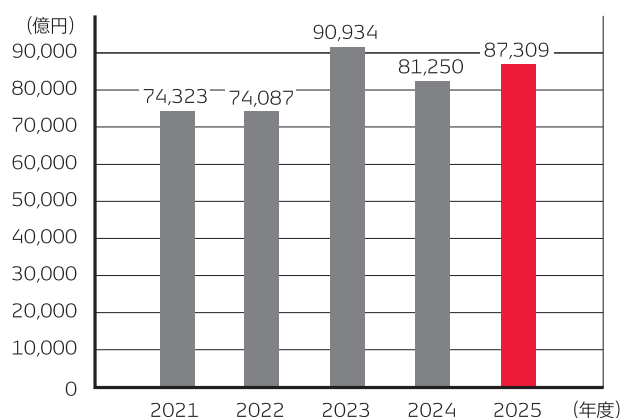
## 営業利益



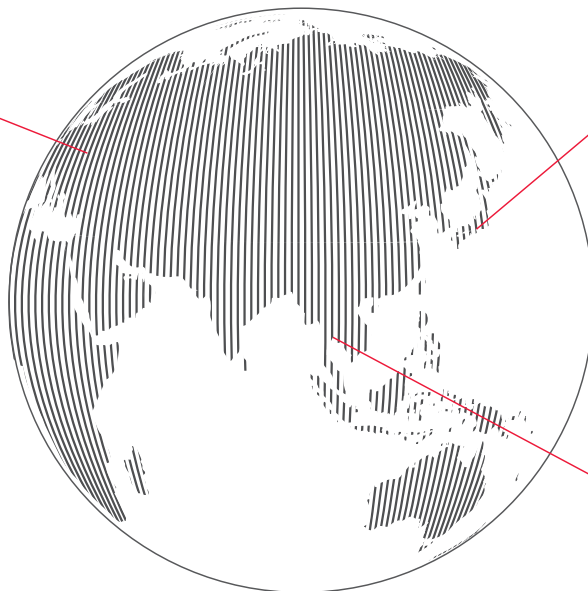
## 当期利益



## 資産合計



**欧州**  
 拠点数  
**45社**  
 従業員数  
**12,939人**  
 売上収益  
**6,915億円**

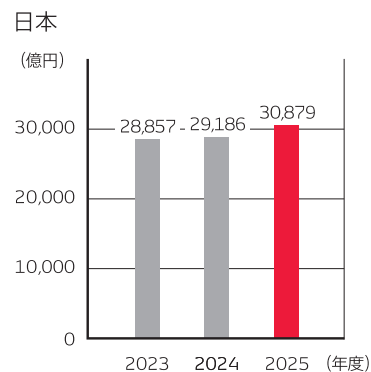
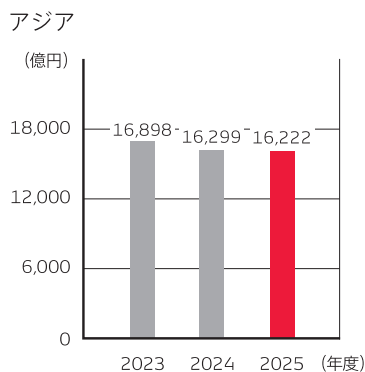
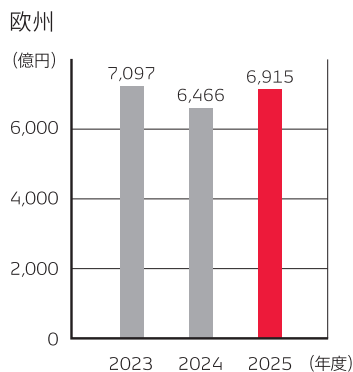


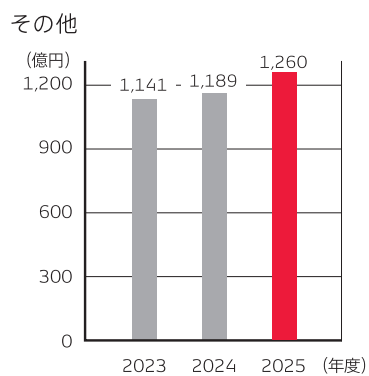
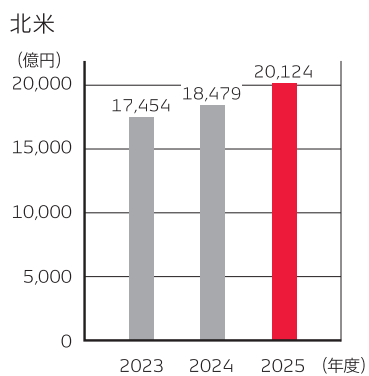
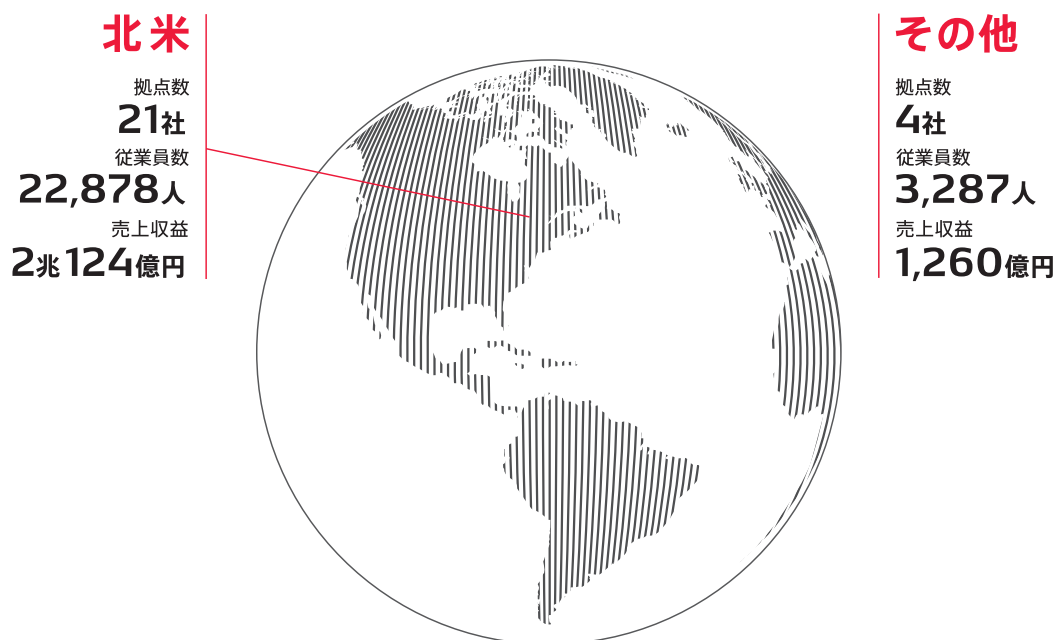
**日本**  
 (株)デンソー含む  
 拠点数  
**52社**  
 従業員数  
**76,417人**  
 売上収益  
**3兆879億円**

**アジア**  
 拠点数  
**68社**  
 従業員数  
**39,195人**  
 売上収益  
**1兆6,222億円**

## 地域別売上収益\*

\*売上収益は外部顧客に対するものです。





# 株式会社デンソー

〒448-8661 愛知県刈谷市昭和町1-1  
Tel 0566-25-5511 (案内)  
<https://www.denso.com/jp/ja/>  
<https://www.denso.com/global/en/>

日本サイト



グローバル  
サイト



統合報告書



公式  
Facebook



公式  
Instagram



## 地域統括会社

### 北米

#### DENSO INTERNATIONAL AMERICA, INC.

24777 Denso Drive, Southfield Michigan  
48033 U.S.A.  
Tel +1-248-350-7500  
<https://www.denso.com/us-ca/en/>

### アジア

#### DENSO INTERNATIONAL ASIA CO., LTD.

888 Moo 1 Bangna-Trad Rd. KM.27.5, T.Bangbo,  
A Bangbo, Samutprakarn 10560 Thailand  
Tel +66-2-315-9500  
<https://www.denso.com/th/en/>

#### DENSO INTERNATIONAL ASIA PTE., LTD.

51 Science Park Road, #01-19 The Aries,  
Science Park II, 117586, Singapore  
Tel +65-67768268  
<https://www.denso.com/sg/en/>

### インド

#### DENSO INTERNATIONAL INDIA PVT. LTD.

Plot No.3, Sector-3, IMT Manesar, Gurgaon,  
Haryana-122052, India  
Tel +91-124-4803200  
<https://www.denso.com/in/en/>

### 欧州

#### DENSO INTERNATIONAL EUROPE B.V.

World Trade Center, Tower Two, 4th Floor Strawinskylaan 1865,  
1077 XX, Amsterdam, The Netherlands  
Tel +31-294-493493  
<https://www.denso.com/nl/en/>

### 中国

#### DENSO (CHINA) INVESTMENT CO., LTD.

Room No. 518, The Beijing Fortune Building,  
No. 5 Dong San Huan Bei Lu,  
Chaoyang District, Beijing, 100004, China  
Tel +86-10-6590-8337  
<https://www.denso.com/cn/zh/>

デンソーは、世界共通目標であるSDGsの達成に取り組んでいます。

